

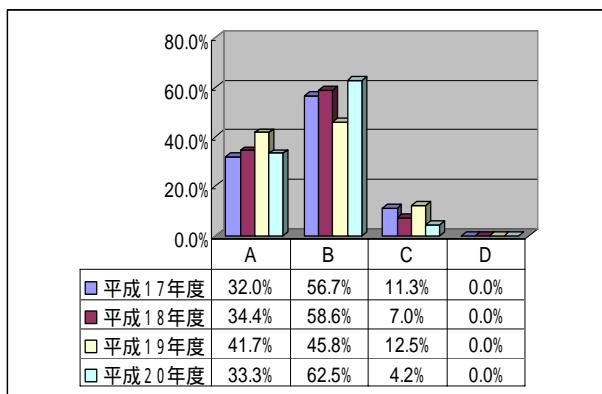
ねらい

幼稚園の生活において、一人一人の幼児が発達に必要な経験を得られるようになるためには、教師が幼児の発達の特性や生活の流れなどに即して、幼児のかかわる環境を構成し、適切な援助をしていくことが大切です。そのために、一人一人の幼児の行動と内面を理解し、教師としての専門性を磨き資質の向上を図るため、様々な観点から研修を進めています。

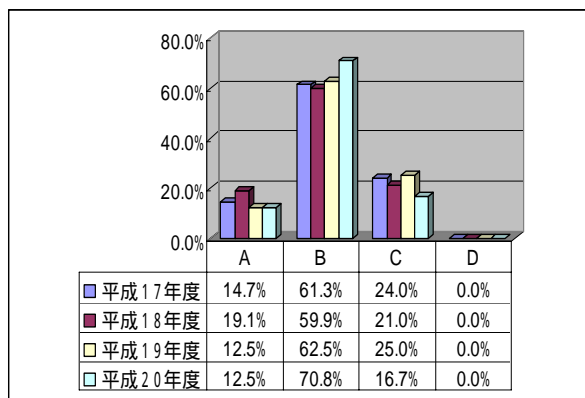
現状と課題

研修に関する園の反省

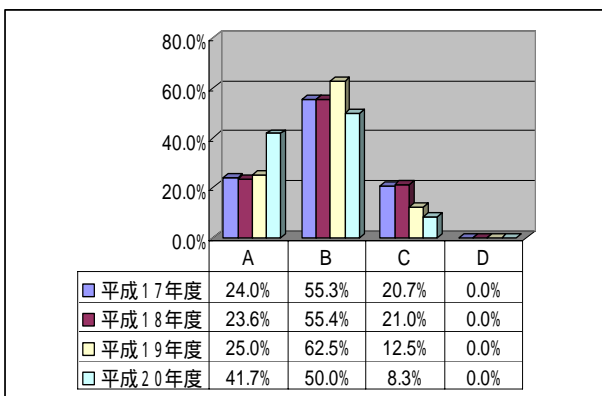
Q 学び合う教職員集団づくりができたか。



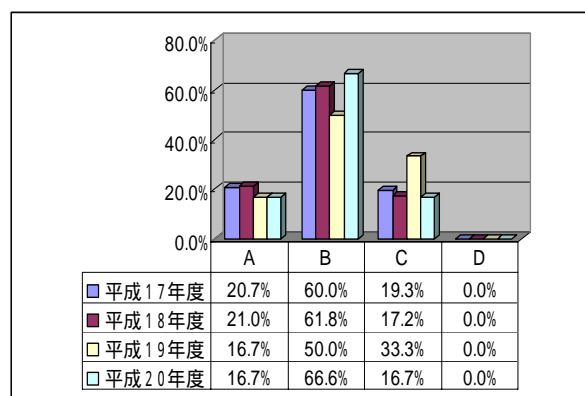
Q 計画的・継続的な研修が実施できたか。



Q 教育力向上のため保育公開ができたか。



Q 研修の工夫・改善がされたか。



【 「A」:十分 「B」:おおむね十分 「C」:やや不十分 「D」:不十分 】

- ・ 4項目共に、やや不十分とする園が、昨年にくらべて減少しており、園における研修体制が充実したと考えられます。
- ・ 幼稚園においては、幼児の遊びや体験を通じた総合的な指導を行っているため、研究主題が「全領域」となっている園が多くなっています。（幼稚園での領域とは発達の側面から5領域、健康・人間関係・環境・言葉・表現に分けられています。）
- ・ 身近な人や環境とのかかわりを重視した園が多く、友だちとのかかわりを通して、生きる力の基礎の育成に向けた研修が進められています。
- ・ 健康な心と体を育てることや食育を主題にした研修にも、多くの園が取り組んでいます。

今後の改善方針

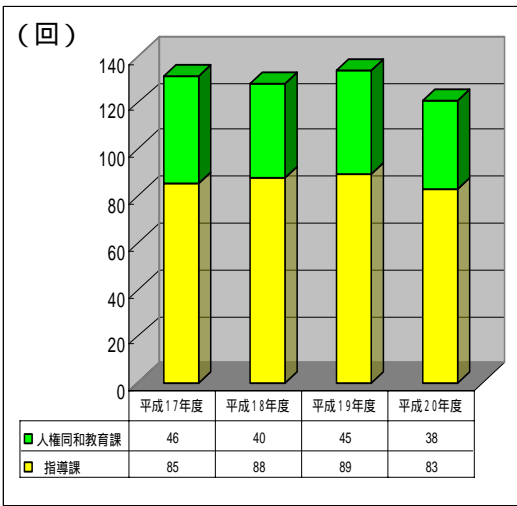
職員全員で研修を進めていく体制や研修の工夫・改善に努めています。しかし、園づくりビジョン達成に向けた計画的・継続的な研修を進めるため、研修時間の確保や研修会の持ち方など、運営面について一層の見直しを図ります。

保育公開など研修会の持ち方を工夫し、保育園・小学校・中学校・地域との連携をさらに進めていきます。また、自己評価（保護者アンケートの結果も考慮する）を積極的に行い、保育内容の見直しや改善を図り、資質向上に努めます。

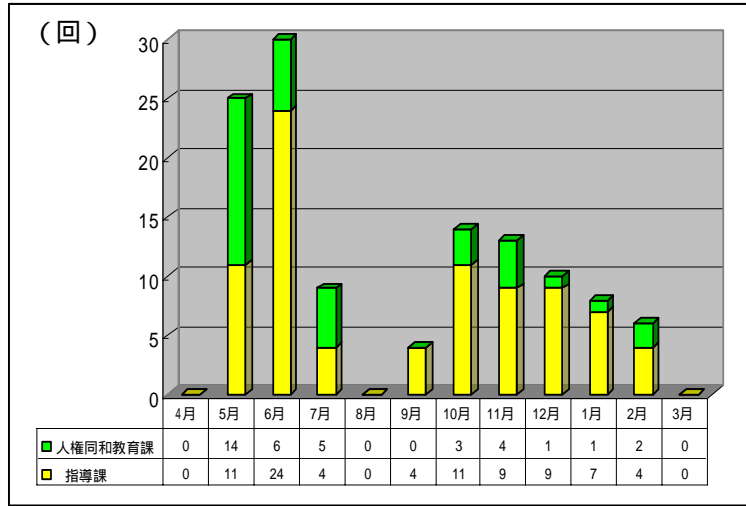
専門性を高めるため、実践を記録し、この記録を基にして幼児理解や指導方法の改善につながる研修を深めます。

園内研修への指導主事の参加回数

< 参加回数の推移 >



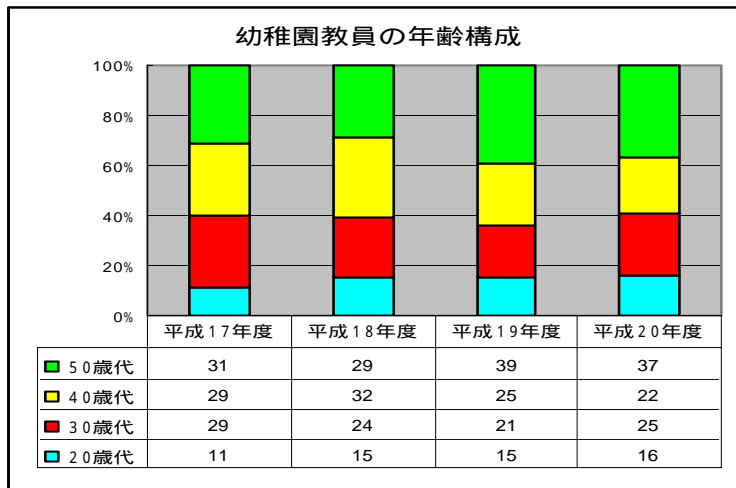
< 平成20年度年間参加回数の推移 >



(四日市市障害のある子どもの保育研修会の専門委員会の業務における派遣回数を含む)

- ・ 幼稚園では積極的に保育公開に取り組んでおり、毎年、各園 2~3 回程度要請訪問を実施しています。

教員（園長・教諭）の年齢別構成割合



- ・ 20歳代が増え、50歳代が減ったことで、平均のとれた年齢構成に向かいつつあります。